

よき人どちに、また一つ

春は新にめぐりつれ。

(令女界3-1)

## 若き店員のうたへる

陳列棚の前に佇ち、

流行の髪に束ぼうと、

私はやはり田舎の子。

春先の、季節の品を商うとて、

華やかな人の間に佇たうとて、

ふとも惚ふは

——田舎家の、草の匂と風の音。

せめて、そのとき心では、

奥様に伴れられた

お美しい方よりも、

(いつもお買物は尠いが)

田舎訛の楮ぐろい掌のお客様。

そんなお方を待つものを——

今日もどうやら私はさみしく、

春の百貨店、

彩とりどりの日が暮れる。

(令世界3-3)

## 少女詩 芒の路

芒の路がありました、

青い芒の葉をわけて、

芒の路をゆくひとは、

とほい山こす旅のひと。

芒の路が枯れかゝり、

白い芒の穂がなびき、

通るはまたも旅のひと、

いつも夕日に影法師。